

令和5年度 福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）
地域再生協議会 会議概要

■ 日 時

令和5年10月2日（月）14時00分～15時00分

■ 場 所

函館市役所本庁舎8階 第1会議室

■ 内 容

1 開 会

2 議 事

(1) 地域再生計画における令和4年度目標達成状況について

3 閉 会

■ 配付資料

資料1 令和4年度 目標達成状況

資料2 居住者数に関する補足資料

資料3 多世代交流センターの利用状況

■ 出席委員（9名）

河原委員，菊池委員，原委員，齋藤委員，桜井委員，武田委員，平野委員，
竹内氏（伊東委員代理），藤林氏（川村委員代理）

■ 傍 聴 0名

■ 報道機関 1社

■ 事務局職員

保健福祉部地域包括ケア推進課 小棚木課長，渡辺主査，根崎主事

■ 会議録（要旨）

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

定刻となったので、ただいまから、令和5年度地域再生協議会を開催する。

なお、本日は伊東委員、川村委員が都合により欠席となっているが、社会福祉法人創生会の竹内様、アルファコート株式会社の藤林様に、それぞれ代理として出席いただいている。

委員の交代があったので、所属とお名前を紹介させていただく。

（菊池委員と原委員を紹介）

議事に入る前に、委員の皆様、福祉コミュニティエリア整備事業の構成員の変更についてお伝えする。前回会議の後、令和5年3月31日に、株式会社ハーモニーから、構成員を脱退するとの意向が代表法人の社会福祉法人創生会に示され、代表法人から市に対し、構成員の変更の届出があり、これを承認したことをお知らせする。

それでは、これからの進行は、齋藤会長にお願いしたい。

齋藤会長

それでは、議事を進めさせていただく。報告事項の(1)「地域再生計画における令和4年度目標達成状況について」、事務局から説明願いたい。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

それでは、資料に沿って説明させていただく。

（資料1～3に基づき説明）

齋藤会長

事務局から説明があったが、何か質問や確認したいことはあるか。

資料3にフリースペース29.8%とある。体操・運動、ダンス教室、軽食喫茶などが多く、イベントなどもある中でのフリースペース、これは、ただ来るだけの場所なのか。

竹内氏

学生さんが来て勉強するとか、子供たちがゲームなどで遊んだり、本を読んだり、本当にフリーのスペースである。Wi-Fiもつながっている。

齋藤会長

ふらっと来て、たたずんだり、おしゃべりしたり、軽食を食べたり、そういう利用者が一番多いと。

もう一点お聞きしたい。資料1でボランティアの数が25人となっており、ちょっと今は少ないかなというところだが、今後はどうなのだろうか。例えば、エリアの中の方や外の方、移住者や元々の居住者など、住民との交流やボランティア活動の機会がこれから増えるのか、増やしていくのか、今後の見通し、展望などあったら伺いたい。

竹田氏

正直、コロナということで一步引いていた部分はこれまでであった。エリアとして、例えば草刈りやごみ拾いなど、自分たちでもやっているのだが、ボランティアの皆さんとできないかなど、考えている部分はある。

齋藤会長

令和4年度に再開した3つの施設について、今の状況など、竹内氏から補足することはあるか。

竹内氏

今日現在の入居者数について、特別養護老人ホームベルソールは先月一度100床が満床になったのだが、先日1名退所して、現在は99名となっている。グッドケア・日吉は18床が満床、グッドタイムホーム日吉・壱番館も昨日1名入居があって29床が満床になり、弐番館も同じく満床ということで、全施設がほぼ満床という状態になっている。他にも申し込みをいただいております、退居等があってもすぐに埋まるので、入居者数が下降傾向となることはないと考えている。

齋藤会長

藤林委員、宅地は完売ということだが、エリアの状況について何か感想等はあるか。

藤林氏

弊社がエリア内で持っているのは駐車場のみだが、もう少し利用を伸ばしていただければというのはある。10年間は現状の計画でやっていくという約束事はあるが、せっかくあれだけ広い土地が、駐車場として利用していただく前提であるので、次の10年を見据えた、全体を盛り上げていけるような企画、計画、施設利用方法なども考えていった方が市のためになるのではないかと。直前になって計画してもなかなか実を結ばないこともあるので、やはり相応の時間を要する前提で、皆さんの意見も聞きながら進めていくのがエリアのためになるのではないかと思います。

齋藤会長

現状は創生会さんの職員用駐車場ということか。ある程度使っているのではないかと思います。

藤林氏

計画策定時は必要台数が見えない中で駐車場の広さを確保したというところがあったが、これくらいで足りるだろうという台数が見えてきたので、全てが駐車場であるべきなのかということも考える時期に来ているのではないかと。

齋藤会長

ある程度の折り込むべき必要数が見えてきたので、その先を見据えた計画に行くフェーズになってきているのでは、と。ありがとうございます。

河原委員はどうか。基本構想の時から関わっておられるが。

河原委員

雇用人数377人ということだが、介護人材は入れ替わりが激しい中で377人の雇用が維持されているというのはすごいことだと思う。ちょっと難しい質問かもしれないが、介護施設だけではなく多世代交流センターや宅地があって、若い人も住んでいてという、こういうエリアはなかなかないと思うのだが、従業員の方で、このエリアで働くことに対する価値を見出している方などはいるのだろうか。単に施設で働くから来ている、ということなのか、その辺をお聞きしたい。

竹内氏

施設の職員はほぼ固定で、長くいる者が多いが、求人する側としては、交通の便が良く通勤しやすいことはアピールポイントになる。また、エリア内に多くの施設があるので、何かあっても別な施設に移れることや、色々な施設を経験したいということで集まっていたところはあると思う。

河原委員

感想としては、実績は全体的に上がってきていると思うのだが、中でも相談件数が上がってきているのが素晴らしいと思う。相談というのは、窓口があるからいきなり相談、とはなかなかならないと思うので、資料にもあるように、施設の認知度が上がってきているということや、もしかしたら職員の顔がよく見えるようになってきて、相談しやすくなって増えている、ということなのかもしれない。相談件数というのは重要なKPIだと個人的には思っていたので、いいことだなと。

駐車場の利活用についての話があったが、エリア内でどのへんの機能が成果が上がっているのかということを見直す中で、どういう機能があつたらいいよね、というところから、駐車場についても、どう利活用しようかということが見えてくればいいのかかなと思う。

齋藤会長

ありがとうございます。相談は、例えばどんな内容のものがあるのか。

竹内氏

自分の方で把握している中では、ふらっと来て「うちの親が施設を探しているんだけど…」というような相談があつて、施設の方に連絡して、そこから入居につながったりということもあると聞いている。

齋藤会長

気軽に相談できる状況になってきているということである。菊池委員はどうか。

菊池委員

実績が上がってきているのはいいことだと思うのだが、資料1の中で、項目の1番と2番の両方に関わるのかもしれないが、宅地は完売して住宅も建設されているという中で、「伸びは緩やかになる」と書かれている。建物が既に建っている段階で、今後伸びていく余地があるのかな、と思ったのだが。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

全て売却済みではあるが、全部の区画に家が建っていると正確に把握しているわけではなく、また、土地の売却から家の建設まで時期がずれる場合もあるかなというところで、今後全く増えないということはないのではないかと、引っ越してきた方がまた出て行って次の方が入ってくるということもあり得る、などと予測しているということである。

菊池委員

土地は売れているが更地のままである、ということかと思ったのだが、家は建っているということだったので、横ばいなんだろうな、くらいの解釈で見えていた。

小棚木課長（地域包括ケア推進課）

あくまで可能性でいえば、申し上げた通り、誰かが引っ越したあとに市外の方が引っ越してきて、ということが今後もあるかとは思いますが、家は大体建ってしまって更地ではないので、おっしゃる通り、「横ばい」という表現の方が良かったのかもしれない。

齋藤会長

集合住宅は建っているのか。

小棚木課長（地域包括ケア推進課）

構想段階ではその想定はあったが、駐車場区画への変更など、都度計画変更している。集合住宅建設への打診は過去に何度かあり、従業員のための集合住宅という話も以前はあったが、現状では動いている話はない。

齋藤会長

駐車場の見込み数に応じて集合住宅とか。

藤林委員

需要があればそういう計画もできるのだが。

齋藤会長

桜井委員はどうか。エリアについての感想など。

桜井委員

福祉コミュニティエリアが最初にできてから、ずっと保育園をやりながら地域を見守ってきた。最初の頃は、園としてもあまり安心できない感じだったが、今は周りに住宅もできて、若い世代が増えて、30代20代の家族の方が住んでいたり、介護施設も稼働して、職員の方の出入りがあったり施設の明かりがついていたり、多世代交流センターも明かりがついていたり、安心して過ごせるエリアになったと感じている。園としても、住宅が増えたので園の見学なども増えており、入園も4月から定員を超えるくらいの申し込みがあった。

安心して運営ができるようになったところだが、先ほども話が合ったように、今後どんなふうにこの福祉コミュニティエリアが作られていくのかな、と。園としてもどんな事業をやっていたらいいのかな、と、思っていた。

齋藤会長

ありがとうございます。結構入園希望者が増えているということなのか。

桜井委員

交通の便もすごく良くなったので、それも相まって増えている。

齋藤会長

エリアのこれまで広々としていたところが賑やかになることで、逆に困っていることなどはあるか。あればここで共有しておきたい。

桜井委員

園として困っているのは、車が増えたことで、園舎の玄関側に保護者用駐車場があるのだが、送迎の時に駐車場から出てくる車が角を曲がってくる車と衝突するということが、去年1件、今年も1件あった。未遂で終わったのも何件かある。最初に道路工事をするときにミラーを付けられないかという話もしたが、それはうまく話が進まなかった。住宅も増えて、送迎の出入りをする保護者の車が邪魔だ、送迎の車がきちんと駐車されていないという苦情が4月と6月に入ったので、時々だが、朝と夕方、私が外に出て交通整理をしたりしている。

齋藤会長

実際に事故があり、未遂もあった。今までなかった問題が、どちらが悪いということではないが、持ち上がってきていると。

桜井委員

引っ越してきた方が、家に入りに邪魔だと。園としても、周りに住宅がたくさんあるという状況がなかった。最初にきちんと把握して進めていけば良かったのだが、今のところ対応に追われているようなところである。

齋藤会長

個人名等は言っていたかなくていいのだが、事故になった相手の方はエリアの中の方か。

桜井委員

今のところは保護者同士だが、去年は違う方だった。

齋藤会長

もしもエリア外の利用者さんだとしたら、注意喚起した方がいいかとも思ったが、まだそこまでではないか。

桜井委員

そこまでではない。

齋藤会長

でも危ないのだろうと思う。エリアの中で暮らしたり仕事をしている方にとっては注意したほうがいいことなのかもしれない。エリアの中の道路は決して広いわけではないので、相互に気を付けましょうと注意喚起した方が良いのだろう。

武田委員はどうか。エリアの中の声などあればお願いしたい。

武田委員

民生委員として1丁目から4丁目までで活動しているが、資料に書いてある通り、コンテの分譲等で人口が増えて地域の活性化につながっていると思う。高齢の方が大勢を占めているが、ちょっと若い人も増えてきて、少しずつ様子が変わってきているのかなと思う。気になっていること、高齢者に関して問題だと思っていることは、外環状線、日吉インターができたが、お年寄り道路を渡ってしまうというのが多くて、我々民生委員としても、町会としても心配しているところである。

あとは駐車場の話なのだが、多世代交流センターは我々も利用を推奨しており、日吉界限の方はかなり通っていると思うが、コインランドリーと郵便局のところに駐車場があつて、それ以外は職員用ということで、やはり少ない。ふれあい祭の時は全くだめで、近隣の商業施設の駐車場や通路にとめるということも見られた。とめる場所がないね、という民生委員の声もあった。

これは個人的な考えだが、ショッピングセンターとドラッグストアがあるが、それらとの住み分けとか、何かをコラボしてやるとか、そういったことは将来的にないのかなど。我々も町会も、お年寄りに外に出てほしいということがあるので、何かそういうビジョンがあってもいいのではと思う。

あとは、道路が一方通行なのだが、それを平気で守らない人が結構いる。トラブルは聞いたことがないが、そういうことも頭に置いてもらいたい。とにかくたくさん住宅が建って、エリアが活性化しているのはいいことだと思う。

齋藤会長

ありがとうございます。

ドラッグストア等とのコラボがあるといいのではないかと、駐車場の不足している、時期的なものもあるかもしれないが、必要なかもしれない、という意見である。

平野委員はどうか。町会に関してなど、何かないか。

平野委員

今日はちょっと面白い話をしたい。うちの町会では今年新入学が7名おり、うち6名が分譲住宅の子供たちで、町会から新入学児童にお祝いを配った。1軒のお宅に私がお祝いを届けに行くと、若いお父さんがお礼にけん玉を見せてあげなさいと言って、子供が見せてくれた。嬉しくなって、マンガに描いてコピーをとって次の日に持っていったら、お父さんが「誰が描いたんですか」というので、私が描いたと言ったら、それはそれとは大笑いしてくれた。夏休みに町会でラジオ体操をやっているが、その子に、またみんなにけん玉を見せてくれと言ったら、体操の後にみんなにけん玉を見せてくれて、体操に来ていたおばちゃんたちも喜んでいて、よかったなあ、と。若い人が入ってくると、班長さんをやらされるから嫌だという人もいるが、こういうこちらが愉快になるような人もいるので、これから時間をかけて、こういう人を大事にしながら、面白い町会にできればいいなあと思っている。

(平野委員のイラストを委員と事務局全員に回覧)

齋藤会長

ありがとうございます。とてもいいイラストですね。みんなに回覧しましょう。事務局にも。けん玉は今またはやってきているようで、やる子供も増えているとか。けん玉大会など多世代交流センターでやっても面白いかもしれない。

河原委員

とてもいいイラストで、何かに載せたり、みんなで使えそうなくらい。

齋藤会長

原委員、多世代交流センターやエリア内のことについて、何かあるか。

原委員

資料の中にもあったが、令和4年度もコロナ禍で人と人との交流が難しい部分があったと思うが、センターの利用者数は、前年度よりも大幅に増えているということで、軽食・喫茶の利用割合が増えていることや、フリースペースの利用が増えていることなどは、多世代交流センターが様々な地域住民の集う場となり、地域に根付きつつあるということの現れなのであり、イベントの企画や軽食・喫茶の運営などの、センター職員の皆さんの日々の頑張りの表れなのだと思う。これからも地域と一体となって頑張っていたきたい。

今後は、地域包括ケアシステムのモデル的なエリアとなるよう、これをいかに持続させていくか、エリアの活動をどのように市全体に波及させるかが重要になってくると考えている。市としても、第1層生活支援コーディネーターを配置し、ボランティアの育成やマッチングなど、地域の支え合いの推進に関する業務を以前から実施しているが、そのコーディネーターの任務のひとつとして、この多世代交流センターとの連携を位置付けたところである。今

のところは、まだ構想の段階だが、多世代交流センターの運営・企画に関する会議などを地域の方々と協働で行うなど、そういった取組みも今後検討しているので、これからも皆様のご協力をお願いしたい。

また、交通量や交通安全に関する話も今回あったが、これについては市の方で共有させていただきたいと思う。すぐに何かができるというわけではなく、具体の対策というのはなかなか難しいかもしれないが、必要に応じて関係部局とも共有させていただきたいと思うので、これからもご協力をよろしくをお願いしたい。

齋藤会長

思い付きだが、例えばセンターあるいはフリースペースあたりで一度この協議会をやってみるのはどうか。コーディネーターにも参加してもらっていてもいいかもしれない。準備は大変かもしれないが、現場を見ながら現地で議論してみるのも面白いのではないかと、今話を聞いていて感じた。

その他、皆様から何か意見等はあるか。

河原委員

全体の話聞いて、量的な部分は結構達成されているかなと思ったが、質的にもちゃんと評価した方がいいのかなと思った。コーディネーターの業務であるとか、移住した方がどういう人でなぜここに来たのかとか、そういうことも含めて質的な部分を評価できると、このまちの魅力ってこういうところだよ、とわかってくる。地域包括ケアシステムのモデルのエリアというのであれば、何が生活のモデルと言えるのか、ということなども、何かしら、調査という大げさかもしれないが、もう5年以上経っているんで、評価の段階になってもいいのかなと、今日の皆さんの話を聞いて思ったところ。

齋藤会長

私の「現地で会議やってみてもいいのでは」というのも、河原委員の言う「質的な評価」を加味して言ったようなところがある。もっと言えば、移住してきた住民の皆さんを交えた懇談会、意見交換会のようなものをフリースペースでやってみてもいいのではないか。そこに委員全員がいる必要はないと思うが、そんな風に話を聞いてみても面白いのかな、と思った。

先ほど藤林委員からあった、駐車場のこれからについて少し議論してもいいのでは、どこで議論するのがいいのかはわからないが、という話。あるいは、武田委員からのツルハなどとのコラボをやるのはどうかという話。あるいは交通の問題、ミラーが付いたらどうかという話など、このエリアの中でいくつか次の話題が出てきた。エリアがこの段階に来たからこそ出てきた話題なのだと思うのだが、交通安全的なものは市の中で共有させてもらおうと原委員から話があったが、それ以外のことはどこで話し合うのがいいのか。この協議会の場がいいのか、代表法人さんで話し合ってくださいということになるのか。

小棚木課長（地域包括ケア推進課）

基本的には、整備事業として、代表法人さんに提案いただいた計画を執行していくという中で、都度、先ほどの集合住宅の話でもあったが、現実に合わせて、あるいはニーズを見据

えながら、大きくは変えられないけれども、パーツごとに見直し等をやっていくことになると思う。代表法人と構成員の皆さんがいるので、全体会議の中で話し合っただけでコンセプトや事業企画を練っていただいて、それが出てきたら、こうした協議体の場などで意見をいただいでいく、というのがいいのではないかと事務局としては考えている。

齋藤会長

先ほど、道路安全は市で共有する、できるできないはあるが、と。そのほかのエリア内のこと、駐車場、ツルハさんなど構成員とのコラボ、入居している方々との連携などについては、協議会でこういう話があったということ、構成員の皆さんで、今日明日とはいかないかもしれないが議論していただいて、ヒントを出すなどしていただければありがたいかなと思う。

ところで、この地域再生協議会は何年までか。

小棚木課長（地域包括ケア推進課）

協議会のスタートは、平成28年に第1回を開催している。地域再生計画の期間は10年間で、平成28年に始まっているので、令和7年度末まででいったん区切り、ということになる。

齋藤会長

それ以降は自走していく、ということで、もうしばらくこの協議会の中でこのエリアを見守っていく、意見を話し合っていく機会があるということで、今後もよろしくお願ひしたい。

その他、皆様から何か意見等はあるか。

(なし)

それでは、全ての議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。

渡辺主査（地域包括ケア推進課）

齋藤会長、ありがとうございました。

それでは、本日の協議会を終了する。皆様、お疲れ様でした。